

5 障がいのある児童生徒に対する性教育の目標及び指導内容

養護学校

(1) 障がいのある児童生徒に対する性教育の目標

障がいのある児童生徒の性教育の目標は、障がいのない児童生徒の目標と同じである。しかし、その障がいの状態や程度に応じて、障がいを克服し、共に生きる社会の一員としての自覚を高め、社会的自律を促すようにすることが大切である。このため、障がいのある児童生徒に対する性教育の目標は、障がいの種別や状態に応じて設定する必要がある。

指導内容

(2) 障がいのある児童生徒に対する性教育の指導内容

障がいのある児童生徒に対する性に関する課題は、基本的には障がいのない児童生徒と同様である。したがって、指導内容も他の学校種に準じたものになるが、障がいの状態によっては、身の回りのこと等を自分で行うことが困難であったり、判断力が十分に育っていないことなどから、自分の力を発揮できない児童生徒もいる。障がいのある児童生徒に対する性教育は、障がいの状態や特性及び学校の実態に即して、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、さらには自立活動等の日常活動にも組み入れ、個に応じた課題が達成できるようにする必要がある。また、障がいの種別によって、コミュニケーションの手段や情報の伝達方法に工夫が必要である。加えて、教材や教具についても障がいの種別や程度に応じて、十分に配慮する必要がある。

ア 心身の発育・発達に伴う性教育の指導内容

知的発達に障がいのある場合には、自他の性の認識が難しかったり、身辺自立の面で課題があったりすることがあることから、性について強い関心をもっているのではないかと誤解されたり、性的な被害者になったりすることがある。これらを踏まえて、障がいのない児童生徒の各学校種における指導内容を基本に、児童生徒の障がいの状態に応じて指導内容を選択する。

イ 男女の人間関係から見た性教育の指導内容

男女の人間関係から見た性に関する発達課題は、基本的には、障がいのない児童生徒と同じであるが、障がいの程度により異なる。このため、各学校種ごとの指導内容に基づいて指導を進めることになるが、障がいの状態によって、自己表現がうまくいかず、相手に誤解を与えたり、不適切な行動をとる児童生徒がみられるので指導に当たっては配慮する必要がある。

ウ 男社会的な面から見た性教育の指導内容

障がいのある児童生徒は発達段階や障がいの程度に応じて、将来にわたって自己実現が図れるよう、男女の役割や責任、生き方などについて考え、男女が互いに尊重し合い、

認め合う心情や態度を育てることが大切である。



(3) 障がい種別の特性による性教育実施上の配慮事項

知的障がい者を教育する養護学校における性教育の実施上の配慮事項

知的障がいの児童生徒に対する性教育は、児童生徒の障がいの状態や各学校の実態を考慮し、人格的発達を促していくための教育活動の一環として、全教育活動を通じて体系的・計画的に行う必要がある。特に、性教育を通して、日常生活の基礎的・基本的事項について身に付けさせるとともに、自己の性についての認識や、他人への認識を深めることが大切である。さらに、児童生徒の心身の発育・発達に応じて、社会性や男女の豊かな人間関係を育て、生命の尊さに気付かせ、将来を積極的に生きていこうとする意欲や態度を育てることが重要である。

教材選択に当たっては、理解力に個人差が大きいため、個に応じた多様な教材を準備することが求められる。絵図や模型、視聴覚教材などできるだけ具体的な教材を用いたり、独自に教材を開発することも必要である。用語についても、難解なものは避け、児童生徒が理解したり、イメージしやすいように工夫する必要がある。

肢体不自由者を教育する養護学校における性教育の実施上の配慮事項

肢体不自由のある児童生徒の中には、障がいがあることによって、性について様々な不安や悩みを抱くことがある。例えば、自分自身の障がいの理解と受容の程度が、自己の二次性徴を理解したり受け入れたりすることに大きく影響し、そのために悩むことがある。また、自己の性についての認識が希薄な児童生徒も存在する。このように、肢体不自由のある児童生徒の性に関しては実態が多様であり、一人一人の実態に即して、個々に応じた指導が必要である。

病弱者を教育する養護学校における性教育の実施上の配慮事項

病気療養中の児童生徒の中には、自分自身の身体や性の発達、病気そのものについての不安や悩みをもつ者が多い。児童生徒一人一人の病気の状態や発達段階等を踏まえ、個別の指導計画をもとに学年の年間指導計画に合わせながら指導を行うことが大切である。

入退院が多い場合は、個別の指導に一貫性を保つことが困難なため、発達段階に応じた短時間で指導できるテキストやビデオテープによる教材などを各自にもたせ、年度途中の入退院の場合にも継続的な指導が行われるよう配慮することが大切である。